

科目名	祖典講読ⅡC						学期	後期	
副題	『即身成仏義』を読む 2			授業方法	講義	担当者	土居夏樹		
ナンバリング	M2-01-204	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカバーして、テキストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後は、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3. " (12) 「六大能生」②
4. " (13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. " (14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (16) 「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8. " (17) 「三密加持速疾顕」② 『五秘密儀軌』
9. " (18) 「三密加持速疾顕」③ 加と持
10. " (19) 「重重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩般若」
12. " (21) 「心教心王過刹塵」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←難波サテライト事務室で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。